



## ISO14001の更新審査を受けました

9月28日にISO14001の更新審査がありました。審査員からは、法規制順守、安全対策、環境経営に対する取り組みを評価して頂きました。自然災害や新型コロナウイルスがもたらす社会の大きな変化をビジネス機会と捉えて、持続的な成長に向けてチャレンジしていきたいと考えています。弊社は平成16年にISO14001を導入致しましたが、初心に帰って取り組んで参る所存です。



審査員によるヒアリング



社内教育研修の様子



## 【豆知識】機密文書処理は「時間」が最大のリスク

**機密文書の紛失や個人情報漏えいのリスク管理で、特に重要なことが文書を処分するまでの「時間」です。移動する時間、保管する時間、処分する時間です。**したがって、当社では直接製紙工場へ持っていく溶解処理ではなく、自社で破碎処理した後、製紙工場へ搬入をする溶解処理を推奨しています。

直接溶解処理の場合は、処理工程を製紙メーカーの工場に頼らざるを得ない仕組みになっています。サービス提供事業者がどんなに安全な処理を約束しても、常に情報抹消を最優先とした処理が実行できるわけではありません。また、製紙メーカーの工場は機密文書の情報抹消をするための施設ではなく、古紙を集めて再生紙の製造販売で利益を上げるための施設です。つまり、商品の売れ行きが好調で生産ラインが順調に稼働している時は溶解処理のシステムは有効に機能しますが、生産調整時期に入り材庫が増えると、製紙メーカーの都合によるところが多くなります。そうすると、**機密情報を抹消しない状態で製紙メーカーへ外部委託することは様々なリスクを顕在化させることになります。**



現在は、OA機器メーカー、宅配会社、物流会社、倉庫業など、多くの企業が機密文書処理のサービスを行っています。低価格を売りにしている会社も見受けられます。しかし、そのほとんどは自社のトラックや倉庫を有効活用するためだったり、シュレッダー機やOA機器を売るための手段としての副次的なサービスの色合いが強いと云わざるを得ません。本業の片手間でやっていますので、サービス全体の品質を担保するのは難しいと言えます。物流会社や宅配会社の場合は、一時保管をして他社の機密文書と積み合わせて製紙工場へ持っていくことがほとんどです。それは、少量の機密文書を製紙工場へ持っていったら利益がとれずにビジネスにならないためです。また、少量の文書しか対応できない、個人からの受付はできないといった条件をつけている会社もあります。**このようにサービス提供事業者の都合で、機密文書を処理している現状があります（外部委託リスク）。**

当社は機密文書の処理施設を自社で所有しており、回収から処理までを文書量にかかわらず、受け付けております。お客さまの立ち会いも可能で、処理工程をオープンにしています。総合的に情報漏えいリスクを減らすために、自前主義、内製化にこだわります。

～明日を考えるための言葉～

「流れ進むのはわれわれであって、時ではない。」-レフ・トルストイ

当社への持ち込み1件あたり10円を寄付

ユニセフへの  
累計寄付金額 **437,820円** ※

※11/30現在

## みなさまの声をお聞かせ下さい

資源リサイクルを通して、環境保全に貢献することを目指す当社では、サービス向上のためにも皆さまからのご意見、ご要望をお待ちしています。

発行元： 奥富興産株式会社

編集責任者： 奥富 宏幸

埼玉県狭山市下広瀬782-2

TEL: 04-2952-3332

URL: <http://www.okutomi.co.jp>

過去のニュース  
レターもチェック  
できます！

## 編集後記

今年は新型コロナウイルスの感染拡大により、世界中が大混乱しました。ビジネスも生活も今までのやり方が通用しなくなりました。露わになったのは、社会、会社、個人の境目がなくなりつつあること。自己否定を繰り返し、新たな挑戦に向けてリスクをとった人が、成功の果実を得る権利を得るということではないでしょうか？